カトリック新潟教会
2024年2月
No. 428

双塔

神の母（テオトコス）

毎年、元旦の日にわたしたちは、神の母聖マリアの祭日を祝います。「神の母（テオトコス）」という称号が正式にマリアに与えられたのは、5世紀、正確には431年のエフェソ公会議によってです。しかしこの称号はすでに3世紀からキリスト信者の民の信心の中で述べられています。それは当時、キリストの位格をめぐる議論との関連で用いられました。この称号によって、キリストは神でありながら、本当にマリアから人間として生まれたことが強調されました。こうしてキリストにおける真の神と真の人との一致が保たれました。実際に、議論はマリアについてのものだったように見えますが、本質的に目を向けられていたのは御子でした。ある教父たちは、キリストの人間性を擁護するために、もっと和らげたことばを用いようとしました。「テオトコス」という称号の代わりに、彼らは「クリストトコス（キリストの母）」という称号を提案したのです。しかしながら、この称号は、適切にも、キリストにおける人間性と神性の完全な一致という教理を危うくするものと考えられました。そのため、431年のエフェソ公会議における広範な議論の後、神の子の位格における神性と人間性という2つの本性の一致と、おとめマリアに「テオトコス（神の母）」という称号を与えることの正当性とが正式に確認されました。

この公会議の後、マリア信心の真の意味での爆発的な広まりが見られるようになり、神の母にささげられた多くの教会堂が建てられました。その中で第一に際立っているのは、ローマにあるサンタ･マリア･マッジョーレ大聖堂です。神の母マリアに関する教理はさらに451年のカルケドン公会議であらためて確認されました。この公会議において、キリストは「真の神であり、真の人間である。‥‥人間性においては‥‥われわれのため、またわれわれの救いのために、神の母マリアから生まれた」と宣言されました。ご存じのように、第二バチカン公会議は、マリアについての教理を『教会に関する教義憲章』第8章にまとめ、マリアが神の母であることをあらためて確認しました。この第8章の標題は「キリストと教会の秘義の中における神の母・おとめ聖マリアについて」です。

それゆえ、降誕祭と深く結ばれた「神の母」という称号は、信者の共同体が常に聖なるおとめをたたえるために用いてきた基本的な呼び名であるといえます。この称号は救いの歴史におけるマリアの使命をよく言い表しています。聖母に与えられた他のすべての称号は、あがない主の母となるという聖母の召命に基づいています。あがない主の母は、救いの計画を実現するために神によって選ばれた被造物としての人間であり、神のことばの受肉という偉大な神秘の中心に位置づけられます。降誕節の間、わたしたちは馬小屋に示された主の降誕の様子を立ち止まって仰ぎ見ます。この光景の中心にいるのが、おとめである母です。このおとめである母は、救い主を拝みに来た人々に、幼子イエスを示して仰ぎ見させます。救い主を拝みに来た人々とは、羊飼い、ベツレヘムの貧しい民、東方から来た占星術の学者たちです。その後、2月2日に祝う主の奉献の祝日に、老人シメオンと女預言者アンナが幼子イエスを母であるかたの手から受け取って、拝みます。キリスト信者の民の信心は常に、イエスの誕生とマリアが神の母であることを、神のことばの受肉という同じ神秘の2つの側面と考えました。ですから、主の降誕が過去の出来事と考えられることはありませんでした。わたしたちは、羊飼い、占星術の学者たち、シメオンとアンナと「同時代の人間」です。わたしたちは彼らとともに歩みながら、喜びに満たされます。神はわたしたちとともにいる神であることを望まれたからです。そして、神には母がおり、この母はわたしたちの母だからです。

イエスは十字架上で、母であるかたをすべての弟子にゆだねると同時に、すべての弟子を母であるかたの愛にゆだねました。（ヨハネ 19・27）。弟子はイエスの母を、自分の現実、自分の存在に受け入れました。こうして母であるかたは弟子のいのちの一部となり、二つのいのちは浸透し合います。このように自分の生活に母であるかたを受け入れることが、主の遺言だったのです。それゆえイエスは、救い主としての使命を完成する最高の瞬間に、弟子の一人ひとりに、貴い遺産として、ご自分の母であるおとめマリアを残したのです。

教皇ベネディクト16世（122回目の一般謁見演説）

インフォメーション!

●聖書勉強会

日時　毎週水曜日 午前 10 時～　**会場**　カトリックセンター研究室　**指導**　ラウール神父

●はじめて教会を訪れる人のための聖書勉強会

ラウール神父にご相談ください。

●信仰養成講座「知ってるつもり!?」

日時　毎月第２土曜日　**会場**　カトリックセンター研究室　**指導**　ラウール神父

★２月は第３土曜の 17 日に変更になります。

●月曜会（秋田の聖母を通して祈る会）（野村）

成井司教のミサとロザリオの祈り（どなたでも、ミサのみ参加も可）

今後の予定　２月は休会、３月 18 日

時間　午前 11 時～　**指導**　成井司教　**会場**　新潟教会聖堂

主日のミサと同様、感染症対策は個人の判断に委ねられています。

●お掃除についてお願い

センター研究室、２階ホール、台所は使用した方がお掃除をしてください。よろしくお願いします。

●「異人池茶の間」 ～語らいの場～

場所は、センター１Ｆ研究室です。インスタントコーヒー、紅茶、日本茶をセルフサービスでのご提供、無料で楽しめます。ぜひお立ち寄り下さい。皆様ご協力の上、楽しいひとときを共に分かち合いましょう。

●特別講演のお知らせ

５月 18 日㈯14:00～　会場：新潟教会　講師：西村桃子氏（シノドス議長代理）

５月の司祭研修のためにお招きしている西村氏の講演に、司教様より良い機会なのでシノドスの話を信徒にも聞いてもらいたい、とのお誘いがありました。（詳細は分かり次第掲載します。）

そよかぜ便り

●主の降誕　夜半のミサ　12 月 24 日㈰

主の降誕の夜半のミサがささげられた。今年はミサ後センターに温かい飲み物とお菓子が用意され、立ち寄ってクリスマスの挨拶を交わす人の姿がみられた。

2024 年２月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等、教会の行事
2 日㈮	**主の奉献（祝日・ろうそくの祝別）**　・ミサ 10:00（初金）
4 日㈰	**年間第５主日** ・小教区評議会（9:30 ミサ後）　・英語ミサ（12:00） ・清掃日（センター、外のトイレ；英語ミサ後）
5 日㈪	**日本 26 聖人殉教者（祝日）**
11 日㈰	**年間第６主日　世界病者の日**　・総務部会（9:30 ミサ後 研究室）
14 日㈬	**灰の水曜日（四旬節、大斎・小斎）四旬節愛の献金（～3/28）**　・灰の式 10:00
17 日㈯	・信仰養成講座「知ってるつもり!?」(10:00 研究室)
18 日㈰	**四旬節第１主日**　・小教区総会（9:30 ミサ後 聖堂にて） ・清掃日（聖堂、外のトイレ、センター；9:30 総会後） ・広報部会（9:30 総会後）　・ベトナム語ミサ（12:00）
22 日㈭	**聖ペトロの使徒座（祝日）**
25 日㈰	**四旬節第２主日** ・教会維持費の整理（9:30 ミサ後 事務室）・国際協力部会（9:30 ミサ後 研究室）

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間

日曜日（7:00、9:30）　英語ミサ（第１日曜 12:00）　ベトナム語ミサ（第３日曜 12:00）

週日（7:00、金曜のみ 10:00）

月刊「双塔」毎月１回　最終日曜日発行　編集･発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部
カトリック新潟教会　〒951-8106　新潟市中央区東大畑通一番町 656
http://cathedral-niigata.jp/　TEL025-222-5024 ／FAX025-222-5054